

## 平成28年度土曜日の授業等に係る実施状況調査等

### 1 実施状況調査結果の概要

資料1の市町等教育委員会対象の調査（以下「市町等教委調査」）、学校対象の調査（以下「学校調査」）、児童生徒及び保護者アンケート調査（以下「児童生徒アンケート」・「保護者アンケート」）の3種類の調査に基づき、概要をまとめました。

なお、本調査のうち、「学校調査」は、各小中学校の校長による回答であり、必ずしも児童生徒、保護者、教職員に直接アンケートを実施し、意見を把握したものではありません。「児童生徒アンケート」・「保護者アンケート」は、土曜授業推進事業実践校の児童生徒・保護者を対象としたアンケートの回答をまとめたものです。

#### <土曜日の授業の趣旨や意義>

- ・「市町等教委調査」では、趣旨や意義について、保護者・地域に説明をしたが理解を得るまでには至っていない市町は、年々減少しています。広報等での周知については、これまでの市町による説明で一定定着が図られたことや学校が周知を図っていること等から、周知を行わない市町が増加する傾向にあります。「保護者アンケート」でも、「説明が不十分であった」の回答は、小中学校とも1割未満となっています。

【資料1：5（2）、（7）、（22）】

#### <土曜日の授業の実施日>

- ・「市町等教委調査」では、実施日を市町内で基本的に統一して行った市町はさらに増加し、9割を超えました。平成29年度の保護者や地域の方への実施日等の周知を教育委員会、学校ともに行う市町は過半数となっています。

【資料1：5（4）、（7）】

#### <学校における実施状況>

「学校調査」では、

- ・土曜日の授業は、昨年度に続き、今年度も実質的に全小中学校において実施されました。  
【資料1：5（9）】
- ・主な授業の内容は、昨年度同様「学力の向上」が一番多く、小学校ではほぼ全ての学校で行われており、中学校でも9割を超えています。（平均実施日数：小学校4.9日、中学校4.4日）また、「体力の向上」が、小中学校とも毎年大幅に増加しています。伊勢志摩サミットで郷土三重への関心が高まった本年度は、「伝統、文化的な行事」が小中学校とも大幅に増加しました。次いで、「道徳の時間」が小中学校とも多く、小学校では半数を超えました。  
【資料1：5（10）①、②】
- ・土曜日の授業の実施方法として、「通常の授業」、「家庭、地域住民等への公開授業」、「家庭、地域住民、大学、企業等との連携協力による授業」のいずれも増加傾向にあります。特に、「家庭、地域住民等への公開授業」は、小中学校とも9割近くとなり、家庭や地域住民等の参画・協力が得やすいといった土曜日の利点も活かしながら、授業に取り組まれています。  
【資料1：5（11）】
- ・土曜日の授業を一部の学年のみで実施している学校は、小中学校とも増加傾向にあります。（H26→H28 1.5%→7.0%（小学校） 3.5%→14.1%（中学校））【資料1：5（14）】

### <週時程の平準化>

- ・週時程の平準化を図って土曜日の授業を実施している学校や、「土曜日を活用すれば、平日の負担を減らすことができる」と考える学校は、いずれも、小中学校とも約1割から1割半となっています。次期学習指導要領では、小学校中学年・高学年で年間35単位時間増となるため、長期休業期間における学習活動、土曜日の活用や週当たりコマ数の増など、地域や学校の実情に応じて組み合わせながら弾力的な時間割編成を考えていく必要があります。【資料1：5（13）】

### <土曜日の授業に対する児童生徒の様子、保護者、教職員の考え>

#### (疲れるので土曜日の授業はない方がよいか)

- ・**学校調査**では、小中学校とも約8割となっていますが、**児童生徒アンケート**では、小学校で約3割半、中学校で約6割、**保護者アンケート**では、小学校で約3割、中学校で約3割半と、学校の受け止めよりは少ない割合となっています。【資料1：5（16）①、（18）、（20）】

#### (友達と一緒に過ごせるので、嬉しいか)

- ・**学校調査**では、小学校で約6割、中学校で約4割となっており、小中学校とも増加傾向にあります。**児童生徒アンケート**・**保護者アンケート**でも、「土曜日の授業について思うこと」に関する選択肢の中で、小学校では半数程度と最も多い回答となっています。【資料1：5（16）①、（18）、（20）】

#### (習い事や部活動などの時間と重なるので困るか)

- ・**学校調査**では、小学校で約5割、中学校で約6割となっていますが、**児童生徒アンケート**では、小学校で約1割、中学校で約2割、**保護者アンケート**では、小学校で約1割、中学校で約1割半と、学校の受け止めよりは少ない割合となっています。【資料1：5（16）①、（18）、（20）】

#### (土曜日の授業では、どんなことがしたいか)

- ・**児童生徒アンケート**では、「何かを作ったり体験したりするような学習をしたい」の回答が、小学校で約6割、中学校で約5割と、小中学校ともに最も多い回答となっています。小学校では、次いで「普段の授業よりも発展的な学習がしたい」の回答が、約4割となっています。【資料1：5（19）】

#### (今後も継続して進めてほしいと保護者は考えているか)

- ・**学校調査**では、小中学校とも昨年度より増加して、約6割となっています。**保護者アンケート**では、小中学校とも約5割の保護者が回答しており、「土曜日の授業に対して当てはまるもの」に関する選択肢の中で、最も多い回答となっていることから、土曜日の授業を肯定的に捉えている保護者が多いことがわかります。【資料1：5（16）②、（22）】

### (授業のない土曜日の過ごし方)

- ・ **保護者アンケート**では、小学校では、昨年度同様、「家族で過ごす」の回答が約7割半と最も多く、次いで「テレビやスマートフォンを見たり、ゲームをしたりしている」の回答が過半数となっています。中学校では、「テレビやスマートフォンを見たり、ゲームをしたりしている」の回答が約5割で最も多く、次いで「家族で過ごす」、「学校で部活動をしている」の回答でいずれも4割を超えています。【資料1：5(21)】

### (教職員の考え)

**学校調査**では、

- ・ 小中学校とも、「必要性を感じない」とする学校は、なお約8割あり、「もっと充実する方がよい」と考える学校は、約1割となっています。一方、「地域とともにある学校づくりにつながる」と考える学校は、小中学校とも約6割となっています。

【資料1：5(16)③】

## 2 土曜日の授業等の成果と課題

### <効果的な取組事例>

#### (学力向上の取組)

- ・ 土曜日の授業で、学習支援ボランティアが計5回来校し、個に応じた支援やプリントの丸つけ等学習支援を行った。子どもたちは、ほめられたり認められたりする中で、学習意欲や自己肯定感が高まった。
- ・ 国語、算数、理科の補充・発展プリント学習やワークシート、全国学調やみえスタディ・チェックの再活用に取り組み、学力の向上につながった。
- ・ 読書の時間の確保やボランティアによる読み聞かせの実施により、読書に対する関心が高まり、読書の習慣が身につき、読む力の向上につながった。

#### (地域と連携した取組)

- ・ まちづくり協議会や大学との連携によって、学校独自では行うことが難しい体験を通じた科学的認識を養う理科の授業や、自分の体力や体力づくりへの関心・意欲を高める体育科の授業を行うことができた。
- ・ 土曜日の授業で、道徳の授業を全学年で公開したことにより、道徳教育について保護者が知る機会となり、学校で取り組んでいる命を大切にする教育等への理解を図ることにつながった。
- ・ 人権教育、食育等、子どもたちと保護者が一緒に考えたり取り組んだりしてほしいことを土曜日に計画すると、保護者が来校しやすく、参加者が多かった。子どもたちの意欲の向上にもつながった。
- ・ 土曜日にマラソン大会を実施したことにより、応援の保護者が多く、子どもが精一杯頑張ることができた。
- ・ 教職員の地域行事への参加等で築いた諸団体との信頼関係が、クラブ活動や農業体験、地域学習の指導などへの地域の方々の参加協力につながった。

- ・地域とともに事業を実施したり、地域に向けて学校行事を公開したりすることにより、地域の方の中学生への信頼が高まり、中学校に協力してくれる大人が増えてきた。
- ・同じ中学校区の3小学校で、中学校の教員による出前授業の後、自分の将来に思いを巡らせ「ドリームマップ作り」を行い、互いに交流したことにより、児童の自己実現への意欲が高まった。 【資料2：P1～3】
- ・主権者教育の一環として、町内中学3年生全員による模擬議会を開催し、地方自治に関する理解を深めた。 【資料2：P4・5】

### （教育課程の工夫）

- ・土曜日の授業で文化的行事や体力テストを実施したことで、余裕をもって行事等の運営を進めることができた。
- ・年間を通じて休日が多かった曜日の授業や、学校行事等の準備や練習のために実施できなかった授業を土曜日の授業として実施したことで、授業時数の確保につながった。
- ・定期テストの3時限後に行っていた授業3時限を、土曜日の授業で行うなどの工夫により、生徒の授業への集中力を高めることにつながった。

### （土曜の課外授業の取組）

- ・中学校において、希望者を対象に高校の教員や生徒と連携して、補充学習を行ったことが、生徒の学習意欲の向上につながった。
- ・文化祭や地域の行事での発表に向けた太鼓の練習や、田植え、稲刈り、収穫したもち米を使ったもちつき体験等を実施したことで、地域とのつながりが深まった。
- ・外国につながる児童を対象に、学校図書館でボランティアとともに補充学習を行い、教科だけでなく、日本語の学習の場とすることもできた。

### （土曜学習の取組）

#### ○補充学習

- ・市（地域福祉課）の学習支援事業により、中学校3校で、地域住民・退職教員等が指導者になり、学習教室を開催した。経済的な家庭事情により家庭での学習が困難な生徒の学力保障につなげることができた。
- ・地域未来塾の取組として、まちづくり協議会（コミュニティ・スクール連携）が主体となり補充学習を行うことで、基礎学力の定着と学習意欲の向上につなげることができた。
- ・退職校長の有志が「土曜塾」を立ち上げ、中学生を中心に学習支援の場を提供している。個別指導により一人ひとりに行き届いた教育が実現している。

#### ○体験活動

- ・教育委員会主催の「土曜チャレンジスクール」として、月1回程度小学生を対象とした学習を実施している。また、教育委員会主催の「ホリデー教室」として、月2回程度小学生を対象とした体験学習（工作・調理など）も実施している。参加児童の基礎・基本の定着や活用力の育成など、豊かな学びにつながっている。 【資料2：P6・7】

- ・市教育委員会社会教育課から委託を受けた地域の文化サークル等から、陶芸や布花づくり、菓子づくりなどを学びながら、様々な世代間の交流をすることができた。
- ・町教育委員会生涯学習課が実施している「こどもいきいき学園」で、スポーツ、調理教室、磯体験など、子どもたちの体験を通じた楽しい学びの場となっている。

### <主な課題と取組>

①週休日の勤務を同一週へ振り替えることが難しい。

(課題に対する取組)

- ・平成 28 年度は、振替状況と取組に係る調査を年 2 回実施・分析し、効果的な取組について情報提供を行いました。
- ・平成 29 年 3 月に、振替率の高い学校の効果的な振替方法をより具体的に紹介するとともに、同一週の振替の対象の明確化を図るため、土曜日の授業に係る文書を発送しました。
- ・今後とも土曜日の授業の同一週の振替について、市町等教育委員会を通じた働きかけを行い、取組状況を確認していきます。

②土曜日の授業の実施に当たっては、地域行事、社会教育団体及びスポーツ関係団体との調整が一定進んだが、特にスポーツ関係団体との調整については、なお難しさがある。

(課題に対する取組)

- ・平成 29 年度より、土曜日の授業を実施するに当たっては、県内の全市町等教育委員会が所管する学校において、原則第 3 週に実施されることになりました。
- ・土曜日の授業の実施に当たっては、継続的に地域や関係団体等に説明し理解を得るとともに、取組の成果や課題の把握に努め、必要に応じて改善を図ることが大切です。
- ・県教育委員会としても、スポーツ関係団体に一層協力を得られるよう、大会等への日程調整について継続的に働きかけを行っていきます。(平成 28 年度に、県教育委員会から県体育協会へ日程調整について働きかけを行い、平成 29 年度には、県内開催のスポーツ少年団の大会日程について調整が図られました。)

③家庭での学習が何らかの理由で困難な児童生徒への学習機会の保障の観点から、土曜日を活用した取組は一定進んできているが、今後も、地域の実情に応じてより積極的に取り組むことが望まれる。

(課題に対する取組)

- ・ 今後も土曜日の授業はもとより、土曜の課外授業、土曜学習等、地域の実情に応じた取組を充実させることが重要です。そのためには、学校・家庭・地域が連携・協働して児童生徒の成長を支える仕組みを整え、地域人材を活用した地域とともにある学校づくりを推進していく必要があります。
- ・ 公立小中学校地域とともにある学校づくり支援事業（コミュニティ・スクールの導入促進）、学校支援地域本部事業（地域未来塾を含む。）等の活用も視野に入れ、地域の実情に応じた取組を推進していけるように情報を提供したり、地域とともにある学校づくりサポーターや指導主事を派遣したりするなどしていきます。県教育委員会にもご相談ください。

### 3 平成 29 年度土曜日の授業実施予定

実施回数	実施週	市町数	市町名
月 1 回程度 ※年間 8 回以上 又は 8 回程度	第 3 週	17	桑名市、木曾岬町、いなべ市、東員町、四日市市、菰野町、朝日町、川越町（小学校）、鈴鹿市、松阪市、玉城町、伊勢市、伊賀市、名張市、熊野市、御浜町、紀宝町
年間 6 回程度		8	川越町（中学校）、津市、大台町、大紀町、南伊勢町、度会町、尾鷲市、紀北町
年間 5 回程度		2	鳥羽市、志摩市
年間 4 回程度		1	多気町
年間 3 回程度		2	亀山市、明和町

※ 地域や学校の実情に応じて、実施回数、実施週が変更される場合があります。